

第2回キャンパスおだわら運営委員会 会議記録

日 時	平成27年7月1日(水)午後2時から4時まで		
場 所	生涯学習センターけやき 大会議室		
委員長	齊藤 ゆか	出席	学識経験者
副委員長	太田 実	欠席	生涯学習の向上に資する活動を行うもの
委員	金澤 久美子	欠席	学識経験者
	左京 泰明	出席	
	古矢 鉄矢	出席	
	有賀 かおる	出席	生涯学習の向上に資する活動を行うもの
	長谷川 治代	出席	
	松下 善彦	出席	
	与那嶺 信重	出席	
	永田 圭志	出席	公募市民
	松本 浩	出席	
	立花 ますみ	欠席	教育委員会が必要と認める者
文化部	諸星部長、安藤副部長		
事務局(生涯学習課)	友部課長、大木副課長、高橋係長、相澤主査、佐久間主任		
キャンパスおだわら事務局	奥村理事長、中田副理事長		
キャンパスおだわら人材バンク実行委員会	太田委員長、遠藤副委員長		
傍聴者	なし		

※委員は区分別五十音順(委員長・副委員長除く)

### 1. 委嘱状交付

- ・出席の各委員に委嘱状が交付された。

### 2. 委員紹介及び職員等紹介

(各委員及び事務局職員等の紹介)

### 3. 議題

安藤副部長 議事に入らせていただくが、本日から新しい委員体制となったので、委員長及び副委員長が決定するまでの間、文化部長が仮委員長となり、議事を進めたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

安藤副部長 それでは、諸星文化部長に仮委員長をお願いする。

#### (1) 委員長の選出について

仮委員長 それでは議事に入る。議題(1)について事務局から説明をお願いする。

友部課長 委員長及び副委員長の選出について、説明する。お手元の資料「キャンパスおだわら運営委員会規則」をご覧いただきたい。第4条に、「委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により定める」との規定があり、これに従い正副委員長の選出を議題とさせていただくものである。

仮委員長 ただいまの説明で何かご意見はあるか。

与那嶺委員 委員長・副委員長選出について、事務局から提案をいただきたい。

仮委員長 事務局からの提案をとの意見があったが、そのとおりに進めてよろしいか。

(同意の声あり)

仮委員長 それでは、事務局から提案をお願いする。

友部課長 それでは、委員長及び副委員長の選出について、事務局から提案させていただく。委員長については、生涯学習・社会教育などの分野について幅広く実践的研究を行っておられ、前期の運営委員会で委員長としてご尽力いただくなど、本市の生涯学習の現況に精通しておられる、齊藤委員に、また、副委員長については、本市内で様々な地域づくり活動に取り組んでおられる、小田原市自治会総連合から選出いただいた太田委員に、それぞれお願いしたい。

なお、太田委員は本日欠席であるが、委員長及び副委員長選出の際に名前が

挙げた場合は、引き受けいただける旨了承いただいている。賛同いただくようお願いする。

仮委員長 委員長に齊藤委員、副委員長に太田委員との事務局案が示されたが、いかがか。

(異議なし)

仮委員長 齊藤委員、いかがか。

齊藤委員 承知した。よろしく願います。

仮委員長 承諾をいただいたので、委員長に齊藤委員、副委員長に太田委員で決定する。

安藤副部長 それではここで齊藤委員に委員長に就任いただいたので、挨拶をお願いする。

(齊藤委員長あいさつ)

安藤副部長 後の進行については齊藤委員長に願います。

## (2) 開設講座について

委員長 キャンパスおだわらでは、さまざまな講座を実施しており、情報誌等によりその講座情報を発信している。その講座の内容をキャンパスおだわら運営委員会が事後承諾になるが、承認をしている。資料1がその講座の一覧である。その内容を見ていただき、確認をしてもらうことになる。詳しい説明を事務局から願います。

友部課長 それでは、議題の(2) 開設講座について説明する。まず、開設講座の具体的内容の説明に入る前に、今期から新たに委員に就任いただいたかたもいることから、簡単ではあるが、キャンパスおだわらの概要と、この議題で委員の皆様は何を行っていただくか、改めて説明する。

参考資料1をご覧ください。

まず、「キャンパスおだわらの理念及び目的」であるが、頁の中ほどの図をご覧ください。小田原市内には、市民主催の学習講座、行政主催の学習講座を始め、様々な生涯学習事業が実施されているが、キャンパスおだわらは、「だれもが、いつでも、どこでも、なんでも学べる場」として、市全体での生涯学習を推進するため、まず、市内の生涯学習情報を把握し、学習情報の提供や学習相談に活用するなどして、学習意欲の向上を図る、また、市の生涯学習事業の不足部分を把握・検証することにより、不足部分を、市民企画講座を公募するなどして補うことで、さらなる生涯学習の充実が図られる、そのような姿を目指すものである。

この「まちじゅうキャンパス」の実現を、学ぶ人、教える人、キャンパスおだわらを運営する人、行政など、みんなで創りあげていく、という意味で、理念を「まちじゅうキャンパス～みんなで創るキャンパスシティおだわら～」としている。

次に、「キャンパスおだわらの運営体系」について説明する。参考資料2をご覧ください。

上段に図があるが、キャンパスおだわらの運営は、小田原市教育委員会の附属機関であるキャンパスおだわら運営委員会を通じた意思決定に基づいて行われる。キャンパスおだわら事業は、学習講座、学習情報、学習相談、人材バンクを4つの柱としている。これらの内容については、後ほどの議題で説明するが、運営主体としては、学習相談、人材バンクについては、実行委員会形式により運営し、全体の調整をキャンパスおだわら事務局が担っている。次に、下段の表をご覧ください。

キャンパスおだわらの運営には、行政のほかに2つの団体、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会ときらめき☆おだわら塾を運営する会が参画している。NPO法人小田原市生涯学習推進員の会は、学習講座、学習情報、事務局の運営を、市の委託事業として請け負っている。きらめき☆おだわら塾を運営する会は、平成24年度までは、市の人材バンク制度の活用業務を請け負っていたが、平成25年度から、キャンパスおだわらの理念・目的に則し、市民主体で運営する新しいキャンパスおだわら人材バンク制度がスタートしたため、現在は、NPO法人小田原市生涯学習推進の会、きらめき☆おだわら塾を運営する会、行政、の3者で実行委員会を構成し、この新しい人材バンク制度を運営している。参考資料4に、人材バンク実行委員会の会則を添付してあるので、後ほどご覧ください。

次に、キャンパスおだわらの事業内容について説明するので、参考資料3をご覧ください。

まず、(1)の学習講座であるが、小田原市内には、市民主催の学習講座、行政主催の学習講座を始め、様々な主体により学習講座が実施されている。キャンパスおだわらでは、「まちじゅうキャンパス」という理念にあるとおり、基本的には市の全域で実施される学習講座のすべてを対象講座とし、全体像を把握し一元化して情報提供するために、認定制度を設け、全体把握をすることによって、不足分野への対応等を行い、学習講座の充実に結び付けていくものである。下段に、「講座体系」の表があるが、キャンパスおだわらでは、大きく市民講座、企業講座、教育機関講座、行政講座の4つに区分している。参考資料3の2ページをご覧ください。キャンパスおだわらの講座認定の流れが、上段の表になっている。この流れの中で、本運営委員会においては、③の認定審査を行っていただくことになっている。認定審査は、表の下に記載している「講座基準」により実施するが、表の右欄「何を」にあると

おり、「基準を満たしているもので、タイミング的に、講座開催日や情報誌への掲載などを行う前に、運営委員会で認定を得ることが間に合わない講座などは事務局が仮認定し、次回の運営委員会で報告、認定」としている。本日の運営委員会においても、この議題で講座の認定を行っていただくので、よろしく願います。

3ページをご覧ください。

(2) の学習情報であるが、キャンパスおだわらでは、こうした講座開催の情報等を、主に4つの媒体で市民に提供している。1つ目は、手元にある「キャンパスおだわら情報誌」で、特集記事や講座情報等の生涯学習情報を掲載し、毎月1万部発行し、公共施設や市内の書店等で配布している。2つ目は、これも手元にある「自分時間手帖」で、小田原市内の団体・サークルやイベントの紹介、施設案内などの生涯学習情報を掲載し、年1回5月に発行し、公共施設等で配布している。なお、後の議題でも触れるが、これまで5,000部であった発行部数を今年度は10,000部に増刷し、小田原市への転入者にも新たに配布を行っている。3つ目は、キャンパスおだわらホームページで、キャンパスおだわらの概要・講座・学習情報・学習相談・人材バンクなどの情報をタイムリーに提供している。4つ目は、インターネット上での検索機能を有する神奈川県生涯学習情報システムの「PLANETかながわ」を活用し、講座・イベント及び団体・サークルの生涯学習情報を提供している

次に、(3) の学習相談であるが、学習者が個人またはグループで、ある事柄を自らの意志で主体的に学習しようとしたり、学習内容をさらに深めようとしたりする際に手助けとなる学習の機会・方法・施設・教材・人材などに関する情報を提供している。相談窓口としては、生涯学習センター本館で休館日を除く毎日9時から17時まで人材バンク実行委員会が、また川東タウンセンターマロニエで毎週水曜日の9時から16時まで市の生涯学習課社会教育指導員がそれぞれ対応している。

4ページをお開きいただきたい。次に、人材バンクについて説明する。この人材バンクは市民の「学ぶ喜び」、「教える喜び」を実現し、人材バンクに登録したかたが活躍でき、自らも成長できることを目的とし、市民主体で運営する制度として平成25年度から新たにスタートした事業である。具体的には、ボランティア講師を「キャンパス講師」として登録し、そのキャンパス講師が市民の要請に応じた講座を開設するほか、キャンパス講師を活用し人材バンク実行委員会が企画・運営する講座などを実施するものである。なお、キャンパス講師として登録できるものとしては、資料の中ほどに記載させていただいております。手元にある「自分時間手帖」にも、キャンパス講師の名簿が掲載されているので後ほどご覧ください。

5ページをご覧いただきたい。

キャンパスおだわらのジャンル表である。キャンパスおだわらでは、学習講座、学習相談内容、人材バンクなどについて、統一したジャンルを使用し、市民が探しやすい情報提供等を目指している。

参考資料5をご覧いただきたい。

こちらは、キャンパスおだわらの各事業の実績値を年度ごとに集計した一覧表である。

以上で、キャンパスおだわらの概要の説明を終わらせていただく。引き続き、この後、先ほど説明した講座の認定について、キャンパスおだわら事務局業務を受託しているNPO法人小田原市生涯学習推進員の会より、仮認定した講座についての説明をするので、よろしく願います。

委員長 今事務局が説明したことが前提となっている。その上で資料1の説明をしていただくのでよろしく願いたい。

キャンパスおだわら事務局(以下C事務局) 資料1に基づいて説明させていただく。こちらは前回の27年度第1回運営委員会後の、主に7月からの講座になる。講座数は全部で80講座。今回は、夏休みを控え、小・中学生を対象に人材バンク実行委員会主催の「夏休み子どもおもしろ学校」が8/1・8/2に開催予定あり、32講座ある。資料の右端にあるジャンル別に見ると、音楽・演劇4講座、文学・歴史が8講座、語学・国際交流が2講座、美術・手工芸が13講座、スポーツ・アウトドア19講座、福祉・社会活動13講座、その他が21講座である。なお、その他については趣味実用、娯楽芸能に加えて情報処理、ビジネス一般及び自然科学関係など、範囲が多岐に渡っていることから全体として大きい数字となっている。区分のところに【子】と【お】の表示があるが、【お】は小田原ならではの講座で8講座、【子】は子どもが参加できる講座であり、今回は夏休み子どもおもしろ学校の講座がある関係で47講座が該当する。講座の有料無料については、有料講座が64%、無料講座は行政講座を中心に36%となっている。これらの講座はキャンパスおだわら事務局で仮認定したもので、もう一度この場で委員の皆さんに確認していただきたい。説明は以上である。

委員長 こちらのキャンパスおだわら開催予定講座について、すでにスタートしている講座もあるが、内容について質問はあるか。

松下委員 これらの講座は、事務局が自ら取りに行っている情報なのか、それとも講座

を実施したい人が情報提供してくるものなのか。

C事務局 両方であるが、講座を実施したい人が情報をあげてくることがほとんどである。

古矢委員 有料講座の料金設定はどのような基準で行っているのか。

C事務局 ボランティア講座としては、受益者負担を徹底する考えかたのもと、1講座1,000円程度を目安にしている。大学等で実施される講座は通常1,000円から3,000円程度であり、カルチャーセンターなどが実施する講座はそれ以上となることが多い。

有賀委員 資料1に掲載されている講座は、すべてホームページに掲載されているのか。

C事務局 情報誌については、資料1の講座の中から、掲載のタイミングが合ったものを載せている。ホームページもしくはPLANETかながわにはその他の講座情報も掲載している。

委員長 ほかにないか。では、これらの講座を認定するということでよろしいか。  
(異議なし)

### (3) キャンパスおだわら運営委員会の検討経過及び今後のスケジュールについて

友部課長 それでは、議題の(3) キャンパスおだわら運営委員会検討経過及び今後のスケジュールについて、説明する。

資料2をご覧ください。本日は、キャンパスおだわら開設から現在に至るまでのキャンパスおだわら運営委員会での検討内容及び今後のスケジュールについて説明させていただき、前期から引き続きの委員と新たに就任された委員との意識共有、課題共有ができればと考えている。平成23年度に事業をスタートしたキャンパスおだわらは、平成25年度から、これまでの事業の評価と、それを踏まえた目標設定等あり方の見直し、及び見直しに伴う改善等の具体策について協議をキャンパスおだわら運営委員会にお願いしてきた。

資料3をご覧ください。こちらは、前期の運営委員会で定めた「キャンパスおだわらの目指す姿と事業との関係」を一覧にしたものである。表の中ほどにある「クドバス」という列をご覧ください。キャンパスおだわら

の事業を評価するにあたり、評価の基準がなかったことから、キャンパスおだわら運営委員会委員、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会、きらめき☆おだわら塾を運営する会及び行政職員により、クドバスという手法を使ったワークショップを実施した。具体的には、キャンパスおだわらで実施すべき項目をリストアップし、それらの項目の緊急度・重要度を10点満点で表すとともに、実施できているかの度合を5点満点で採点した。その結果、実施の度合については、どの項目も概ね低い点数となり、実施が不十分であるという評価がなされた。

次に、目標設定等あり方の見直しについては、表の左端にある本市総合計画に定める生涯学習の施策等を踏まえ、またクドバスの評価内容も反映して、表ではその間の列にある「目指す姿」を定めたものである。さらに、表の右端にあるが、目指す姿を計るための指標もあわせて設定した。資料4は、それら指標をキャンパスおだわらの実際の事業毎に表したもので、それぞれについての目標値と平成25年度及び平成26年度の実績値を記載した一覧表であるので、後ほど確認いただきたい。

次に、見直しに伴う改善等の具体策については、資料3の表の網掛けの部分に該当する、クドバスの評価における緊急性・重要性の度合が特に高いものから、「市民ニーズの把握について」「情報発信について」「キャンパスおだわらの円滑な運営について」「まちづくりに生かす人材の育成について」の4つを抽出し、優先的に取り組むべき重点改善項目として位置付けた。

資料5をご覧ください。これは、4つの重点改善項目の検討経緯をまとめたものである。まず、1の「市民ニーズの把握について」であるが、平成26年8月27日の第3回運営委員会において、「講座参加者」と「講座不参加者」のそれぞれの属性に対するニーズ把握について方向性を決定し、「講座参加者」に対しましては、キャンパスおだわらの共通アンケート様式を作成し、統一的なニーズ把握を行う。また「講座不参加者」に対しては、不参加の理由は国が実施したアンケート「生涯学習に関する世論調査」の結果を活用することとし、「きっかけが掴めない」ことを理由としているかたを主なターゲットとして、きっかけづくりを目的とした取組を検討することとした。講座参加者に対する共通アンケートについては、平成27年4月から実施している。

資料6-1をご覧ください。これは、平成26年8月27日の第3回運営委員会時に行政案として提示した際の資料である。

資料6-2をご覧ください。これは、平成27年4月から実施している講座参加者に対する共通アンケートの様式である。

資料5にお戻りいただきたい。次に、2の「情報発信について」であるが、平成26年10月22日の第4回運営委員会において、情報媒体毎の改善の方向性を決定し、平成27年4月からは、NPO法人小田原市生涯学習推進

員の会を中心に、媒体毎に出された改善の方向性について、可能なところから順次改善を実施している。

資料7-1をご覧いただきたい。これは、平成26年8月27日の第3回運営委員会において、現状分析と方向性について行政案として提示した資料である。

資料7-2をご覧いただきたい。これは、媒体毎の改善の方向性を一覧にした資料である。右から2番目の列にある「改善の方向性」が運営委員会で検討され出された方向性である。一番右に記載している改善案の項目が、キャンパスおだわらの担い手であるNPO法人小田原市生涯学習推進員の会を中心に、改善の方向性に従い、可能なところから順次実施を行っている状況を記載しているものである。表の2段目にある、自分時間手帖については、先ほども申し上げたとおり、今年度から発行部数を増やし、小田原市への転入者に対しても配布を行うことで、ライフイベントの変化に伴うニーズへの対応を行なっている。

資料5にお戻りいただきたい。3の「キャンパスおだわらの円滑な運営について」であるが、キャンパスおだわらの運営については、大きく分けると、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会に委託している部分と、実行委員会で運営している人材バンクの部分がある。この内、複数の団体の構成員により組織された実行委員会形式で運営されている人材バンク事業の円滑な運営を図ることは、今後のキャンパスおだわら事業全体の円滑な運営に大きく寄与するものと考えられること、また、現状では参画者の満足度に課題があると考えられることから、平成26年12月19日の第5回運営委員会において、キャンパスおだわら事業の1つである人材バンク実行委員会の運営改善から取り組むこととし、その改善にあたっては、再検討会議メンバーを選定して別に検討することとした。

資料8-1をご覧いただきたい。これは、第5回運営委員会時の資料である。

1の「検討目的」に記載があるが、人材バンク事業については、市の総合計画の詳細施策である「多様な学習の機会と情報の提供」を「市民の主体的な運営」により実現するための一方策として実施している。現在、NPO法人小田原市生涯学習推進員の会及びきらめき☆おだわら塾を運営する会から推薦された者並びに生涯学習課職員で組織される実行委員会がその運営を担っているが、人材バンク制度の最終目標、何のために人材バンクを実施するかといったことの共有が十分ではないため、目的意識を持った事業運営が実現できておらず、参画者の満足度も低下しているという現状である。そこで、今回、人材バンク制度の最終目標を明確化した上で必要な事業を改めて整理することで、運営に携わる者の満足度を高めるとともに、持続可能な運営を図ってまいりたいと考えている。また、様々な年代の参画が可能となるような見直しをあわせて行うことでも、持続可能な運営を目指そうとするもので

ある。この再検討については、2の「スケジュール」にあるとおり、平成28年度から新体制での事業を開始するために、今年度の9月までを目途に現在も検討を行っているところである。検討にあたっては、3の「検討方法」の下段の表にあるとおり、現人材バンク実行委員会のメンバーに加え、キャンパスおだわら運営委員会からも2名の参加をいただいている。なお、キャンパスおだわら運営委員会からのメンバーの内、岩屋泰彦様におかれては、前期の任期満了日である5月31日をもって委員を退任されたが、検討内容はこれから具体的な事業内容や運営体制など、重要な局面に入ることから、前回の運営委員会において承認をいただき、引き続き人材バンク再検討会議に参加いただいている。

資料5にお戻りいただきたい。人材バンク再検討会議は平成27年1月23日から月に1回程度のペースで実施しており、現在までに7回実施している。これまでに、人材バンク制度の最終目標の共有、最終目標を実現するために必要な要素の洗い出し、同じく事業の洗い出し、人材バンクの事業運営（実行委員会の役割）の明確化、現在の事業運営の課題確認等の内容を検討してきた。資料8-2は、人材バンク再度の最終目標と、それを実現するために必要な要素、事業を表にしたものであり、裏面には、各事業の具体的実施方法について挙げられた意見が書かれている。

資料8-3は、人材バンクの事業運営についてまとめたものである。これらの検討内容については、次回の運営委員会で改めて改善の方向性を中間報告する予定であるので、その際には委員の皆様からも意見をいただければと考えている。

資料5にお戻りいただきたい。4の「まちづくりに生かす人材の育成について」であるが、キャンパスおだわらの目指す姿「学習の成果がまちづくりに生かされている」を実現するため、平成26年12月19日の第5回運営委員会において、まちづくりに生かす人材育成に繋げるための講座を、平成27年度に生涯学習課が行う行政講座の中で試行的に実施する案を提示した。試行的に実施する講座の具体的検討を今後進めるにあたっては、平成27年2月10日の第6回運営委員会において、講座コーディネートの豊富なノウハウを持つ左京委員に協力を得て進めていくことを承認いただいた。その後、キャンパスおだわらにおけるまちづくりの課題は担い手不足であり、担い手不足を解消していくことが、小田原市のまちづくりの発展に繋がるとの考えのもと、その課題を明らかにするために、担い手不足の状況把握を実施、現在は担い手になり得る可能性の高いターゲットの検討作業を行っているところである。

資料9-1をご覧ください。これが、第5回運営委員会で行政案としてご提示した資料である。小田原の学びを通じて、新たな市内の「小田原ファン」を生み出すことをコンセプトとし、まちづくりへの参加は、押し付けで

はなく、自発的な活動を促すことが必要であるとの視点により企画した講座の一案である。

資料9-2をご覧ください。これは、平成26年度に、生涯学習課が実施した行政講座の実施状況一覧である。平成26年度の行政講座については、大きく「郷土学習」「まちづくり」「地域課題解決」「人材育成」をテーマとして各講座を企画・実施した。

次に、本日卓上に配布した資料「「まちづくりに生かす人材の育成」の検討のヒントとなる行政講座の例（平成26年度）」をご覧ください。これは、平成26年度に生涯学習課が実施した講座の中で、今後、「まちづくりに生かす人材の育成」について検討する上でヒントとなるのではないかと考えられる講座について、実施の背景、実施内容、講座受講後の変化を記載したものである。左側の民俗芸能講座については、各団体が後継者問題を抱えており、その課題を解決するため、単に後継者を募集するのではなく、小田原の伝統文化を、みて・きいて・ふれることでその魅力を再発見する講座を企画した。民俗芸能文化の概要を座学で学びながら、実際に人形に触れる、太鼓をたたく、田植歌を歌うなどの体験を通じて面白さを感じてもらうことで、結果として特に深刻な後継者問題を抱えていた田植歌の団体に受講生の中から2名が入会するなどの成果があった。

右側の託児ボランティア育成講座については、キャンパスおだわらの講座を含め、市内で講座を実施するにあたり、子どもを持つ親にも集中して講座に参加していただくなどの目的から、託児付の講座開催を希望する主催者が増え、託児ボランティアの必要性が高まっており、そこで、子どもが好きで保育に関心がある方を対象に、託児の基礎的な知識や技術を身につける講座を、受講後は託児ボランティアグループ「はちの会」で託児ボランティアとして活動することが前提である旨を事前に告知した上で募集を行い、実施した。結果として、定員を超える応募があり、受講者のほとんどが受講後に託児ボランティアとして活動している。

このように、実施の背景や課題が具体的であると、実施内容もより課題に沿った内容が可能となり、成果も明確であること、個別の具体的課題解決が、その後のまちづくりや人づくりにも繋げることができるということが感じられたので、今後の講座の検討に生かしたいと考えている。以上が、昨年度から検討を行ってきた4つの重点項目の進捗状況である。

資料2にお戻りいただきたい。資料下段の今後のスケジュールにあるとおり、今期の委員の皆様には、4つの重点改善項目のうちの主に「キャンパスおだわらの円滑な運営」及び「まちづくりに生かす人材の育成について」の2点を大きなテーマの中心として、協議いただきたいと考えている。

最後に、参考資料6、7については、前期の会議毎の概要を記載した資料である。

私からの説明は、以上である。なお、齊藤委員長には、前運営委員会でも委員長として多大なご尽力をいただいている。補足説明等あれば、よろしくお願ひする。

委員長

前期の2年間で検討してきたことを説明していただいたので、資料も豊富であり、分からないところも多くあると思うが、全体像を簡単に説明させていただく。平成23年度から平成25年度までの第1期キャンパスおだわら運営委員会については、私は関与していないが、キャンパスおだわらの立ち上げ期にあたる。平成25年度からの第2期キャンパスおだわら運営委員会の役割としては、キャンパスおだわらを立ち上げたが、内容や今後の方向性がそれで良いのかどうかを評価して欲しいという依頼があり、評価と今後の方向性をつくっていくというものであった。今回からの第3期は、それをより具体的にどう運営していくかということが与えられた大きなテーマである。

2期で私どもが参加した時にキャンパスおだわらの説明があったが、その際、キャンパスおだわらの主旨は理解したが、その評価軸はどうなっているのか、目指す目的は分かったが、キャンパスおだわら運営委員は何をすべきなのかということが、第1回目から3回目くらいまで、混沌としている状況であった。どこをゴールとして目指しているのかが分からなかったため、一度4時間ほど時間を使わせていただき、全員でキャンパスおだわらのあり方、運営にどのような人材が求められているのか、単に趣味教養の講座を受けるだけでなく、社会の要請に応える、地域の支えになるための主体的な市民を育成していくために必要な戦略とは、という大きく3つのテーマに分けて再検討することとした。全員で20人が参加し、テーマに沿って3つのチームに分けてワークショップを実施した。

実施して出された意見をまとめ、特に、キャンパスおだわらのあり方については、具体的にどういったことが優先順位が高く重要であるかを議論した。その時にもっとも優先順位が高く事業として進めていくべきなのは、市民ニーズをそもそも把握していないということであった。次に情報提供のあり方がバラバラで、講座の情報が市民に行き届いていない、そもそも知らなかったという状況があるため、もっと知ってもらうため、情報提供の仕組みを考える必要があるということであった。3つ目に挙げたのがキャンパスおだわらの円滑な運営をどのようにしていくか、行政が担うべき部分と市民が担うべき部分の住み分けを検討しながら協働運営をしていくかということである。4つ目がまちづくりに繋がる主体的な市民の育成をしていかなければならないということが挙げられた。

このように、優先順位をつけることができたので、その優先順位に沿って4つの重点項目の内、1、2については、改善の方向性を2期の運営委員会で決定し、具体的な改善が始まったところである。3、4については、改善の

方向性が決定していないため、引き続き今期の運営委員会で議論して良い形で始動していくことが大きな役割となる。それぞれキャンパスおだわら運営委員会の中だけの議論では間に合わないのので、再検討会議の場を設けたり、左京委員に別途アドバイスをお願いするなどして並行的に進めている。人材バンクの再検討の経過報告は何かあるか。

有賀委員 これまでに7回の会議を実施した。市民主体の生涯学習という最終目標の実現に向けて、必要な要素や事業の洗い出しを行った。人材バンク実行委員会の役割を明確にしたものが資料8-3になる。ここで、人材バンク登録者の把握と、利用者の把握、両者のコーディネートが3点が役割として求められることを全員で確認した。今後は、現在の運営体制の課題を確認し、事業運営の具体的な検討を行う予定である。前回の会議では、運営を担っている2団体の意識の違いが課題として挙げられた。これらを踏まえ、担い手として新たな力の必要性なども含めて今後再検討していく予定である。次回のキャンパスおだわら運営委員会で予定されている中間報告でお伝えできればと考えている。

委員長 大きな枠組みを作って、具体的な議論を進めていただいているところである。次回以降の経過報告の内容を聞いて、もう少しこうしたら良いのではといった意見を運営委員会の場でも聞ければと考えている。まちづくりの人材育成の経過報告については如何か。

相澤主査 まちづくりの人材育成については、左京委員と運営委員会の後に時間をいただき、検討するとともに、メールなどを通じて情報交換をしている。担い手不足について具体的にどのような課題があるのかを洗い出した結果、今回は地域の課題に焦点をあてることとした。しかし、地域の課題ということだけでは漠然としたものになってしまうので、範囲を絞り、地域の個別の課題を見つけ、その課題解決のための講座を実施したいと考えている。本日もこの委員会の後に左京委員との打ち合わせを予定しているが、その中で、モデルとなるのではないかと考えている地域の活動とその課題を紹介させていただき、検討を進めていきたいと考えている。

委員長 ご存知の方もいると思うが、左京委員は最近でも「月刊社会教育」という雑誌において、社会教育のイノベーションというタイトルで紙面の半分以上を使って特集されるなどしているシブヤ大学を運営する学長である。シブヤ大学は渋谷区の教育部局とも連携して講座を実施するなどの実績もあり、このノウハウをそのまま小田原市でも使えるかどうかは分からないが、運営と今後のまちづくりの人材育成の仕組みづくりについて協力をお願いしていると

ころである。

左京委員 まちづくりと言っても内容は地域によっても多岐に渡る。ざっくりとしたまちづくりという言葉、今回の場合は定義付け、それを解決していくということが必要だろうということで、今回の場合は、各種の小田原市の市民団体の活性化ということにしようということになった。そうした場合に、課題とは何かということについて仮説をたてたところ、各種団体の担い手が不足しているのではないかとということになった。その仮説に基づいて現状の調査、把握をしてもらったところ、やはり担い手が不足しているという現状を訴える団体が多いことが判明した。そこまで来たときに、事務局からは子供会に着目したアイデアが出された。なぜ子供会なのかというと、子供会に関わるということは、地域活動に関わる初めの一步にもなっているという現状があり、子供会に参加した後にPTAにも関わったり、青年部であったり自治会であったり、ゆくゆくは老人会であったりということの入口になっているということを調査の中から発見したからである。そこで、子供会に参加する人数を増やすためのPRに繋がる講座を実施してはどうだろうかという提案があった。しかしながら、ここで、本当にそれで良いのだろうかということになった。つまり、子供会の担い手が不足しているのは、子供会のPR力やその活動が不足しているからだけなのか、もしくは過去にあった子供会に対するニーズそのものがライフスタイルの変化の中で変わってきている、もしくは弱まってきているということはないだろうか考えると、単に子供会のPRをしたところで、成果には繋がりにくいのではないかとということも事務局内で出てきた。そこで、我々としてはより具体的に地域のニーズを生むの声として聞いていかないと、実際にどのような活動がそこで生まれ、盛んになっていけば良いのかというイメージが湧かない中では、その手段である講座のイメージも湧いてこないということになった。

そこで、小田原市内でモデルとなるような地区を探し、その中で現在どのような活動が存在し、そこにどれくらいの市民が参加しているのか、そこでどのようなことを地域の方は欲しているのかなどを現場に入って把握していく中で、どのような活性化の方策があるかを考えていこうという話になっている。モデル地域で行った解決策を見つけていくプロセスを一つの地域から他の地域へ展開し、小田原市全域のまちづくりに繋げていくということは今も考えている。

委員長 左京委員が前期の時からこだわっていると感じるのが、ニーズの把握や現状の把握ということである。シブヤ大学も地域のニーズを把握したうえで、講座を設定するというを行っていると思う。モデル地区はある程度決まっ

ているのか。

相澤主査 活発に活動をしている中で課題を感じている団体があり、そこをモデル地区として、課題解決に協力させてもらえないかという話をしていこうと考えているところである。

委員長 委員の皆さんにも、それぞれ関わっている団体や分野の中でどのような課題があるのかを参考に聞かせていただきたい。

長谷川委員 子供会について、左京委員が話されたことも一理あると感じた。地域によって子どもの人数が違うということが第一。次に5、6年生になると子供会の役員をやられるため親の負担が大きくなり、抜ける人もいる。自分の地域も子どもが少ないため、幼稚園から老人まで一緒になって育成会として活動しているが、集まるのは小学生までがほとんどである。中学生になると部活や塾などの理由により、一緒に活動するのが難しい状況である。青少年対象にキャンプ等を実施しても、中学生以上になると段々と離れていってしまう。何か一つでも、子どもが夢中になれるものを体験させられれば良いのだが。

松下委員 私の所属する商店街では、昔はほとんど行っていなかったが、我々の世代からまちなか市場などイベントを多く実施している。そこでは、役員が活動する機会が増えたが、役員以外はほとんど参加しないのが現状である。そのため人材不足になっており、現在は市役所から知り合いや学生のボランティアを紹介してもらい、イベントを作り上げる場所から関わってもらっている。

与那嶺委員 私はNPO法人寺子屋スクールに所属している。そこでは、運営する側の人材は揃っているが、参加する子どもが少ないという課題がある。原因としては、先ほど長谷川委員が言われたとおり、稽古ごとなど別の活動をしているためである。寺子屋スクールの内容や目的からすると、本当は中学生にも積極的に参加して欲しいが、それが難しい状況にある。色々なメディアを通じて情報発信をしているが、市内よりもむしろ市外からの参加が増えている。

有賀委員 私はスクールボランティアの活動をしているが、学校現場でも、スクールボランティアの人材不足が課題として挙げられている。スクールボランティアとは直接関係はないが、先日、生活科部会に所属している小学校の先生から、先生方に昔遊びを教えてくれるような人材はいないかという相談があった。以前お世話になった団体やキャンパス講師の方を紹介し、講座を実施した例があった。このようなことをきっかけに、学校の先生などにもキャンパス講師などの情報が広まっていけば良いと感じた。

- 委員長 キャンパスおだわらとスクールボランティアとの接合点はあるか。
- 有賀委員 自分時間手帖を各学校に配布しており、この冊子にキャンパス講師の情報なども載っているので、授業に必要な人材をピックアップしたり、サマースクールを開催する時に必要な講師の情報を得るなどの活用が考えられる。
- 委員長 スクールボランティアの人材が不足しているということだが、どのような現状なのか。
- 有賀委員 保護者に関しては、子どもの様子を見学したいという思いもあり、参加される方が多いが、地域の方の参加は難しい面もある。しかしながら、畑や学校農園などには協力していただいている。
- 委員長 今社会では、貧困により学習が困難な子どもが増えていることが問題となっているが、そのようなことにも関わっているのか。
- 有賀委員 今年度からモデル校を設置して、放課後子ども教室が始められた。学校が終わった後の時間を使って子どもたちの勉強を見ている。放課後の生活の場としての放課後児童クラブとは違い、学習の場として捉えている。その中心となる学習アドバイザーは、退職された学校の先生3名で構成されている。参加する児童の数が多く、3名では対応しきれない状況もあり、ボランティアを募集するなどして対応を模索しているところである。
- 委員長 古矢委員は相模原市でさがまちコンソーシアムの理事をされている。さがまちコンソーシアムでは、その中にメディアを加えてまちを活性化させていることが注目されている。メディアの運営を学生たちが担っており、その学生たちの教育を行っているのが行政とメディアのプロたちである。そのあたりの視点からいかがか。
- 古矢委員 昨年の12月に、50年ぶりくらいになるが、小田原市の城址公園の中にある郷土文化館に行った。私が小学生の頃は郷土文化館と市立図書館を良く利用していた。子どもたちの居場所を用意してあげることはとても重要であると感じている。小田原駅前に市民交流センターが開設される予定だと思うが、この施設はとても良い居場所づくりになるのではないかと考えており、活用しない手はない。
- キャンパスおだわらの目的とまちづく人材育成を結びつけるのは少し無理があるのではないかと思う。キャンパスおだわらは個人と地域の繋がりを良くして全体の能力向上を目指そうというのが第一の目的だと思うが、そこにま

ちづくり人材育成が入ってくるとなると、もしキャンパスおだわらがまちづくり人材育成を真剣に担うのであれば、市民団体以外の地域団体とも一緒になって、別の大きな活動体をつくっていくことが必要なのではないか。相模原市は、教育学習と人材育成、まちづくりという3つの柱を立てているが、教育委員会や市民協働課など、教育部局と市長部局の間を束ねる必要がある。キャンパスおだわらには少し荷が重い役目ではないかと感じる。短期的に考えると、小田原でしか学べない、小田原で学ぶとそこにに関わりたくなっていくような学習をつくっていくことが大事である。小田原には魚介類が豊富であるため発酵文化がある。また、昔、小田原は関八州の中心であったため、自尊心の強い町であり、その良さを発信する。あるいは文学では小田原は抜きんできているので、重点的に取り上げる、箱根細工のからくり教室など、小田原でしか学べない講座を用意するなど、これらを学習の機会を提供することで、小田原市民以外のかたも含めてまちづくりに参加してもらう。そのような総合的な取り組みを考える必要があると思う。

永田委員 情報発信の媒体が増えることは良いことだと思う。Facebook などはお金のかかるものではないので、やらないよりやった方がよい。

委員長 小田原市は市長を中心に、市民との協働について力を入れている。まちづくりの人材育成とわざわざ言わなくても、市のホームページを見ると市民の力が生かされている活動の内容が掲載されており、小田原ならではの活動の情報提供は十分なされていると感じている。しかしながら、まちづくりを行っている人たち、イベントを実施している人たち、市民活動を行っている人たち、学んでいる人たちとこれから学びたいと思っている人たちなどが今はバラバラになっているのではないかと感じる。生涯学習が担うべきは、じっくりと育成するという部分の側面も必要であり、その部分の中核となって考えるべきであると思う。左京委員のアプローチとは少し違うが、私は市民大学の研究をしており、市民大学というのは一学年100人程度を募集し、1、2年間に渡り、カテゴリ分けした講座を一週間に一度程度実施するものであり、多くの自治体で実施している。小田原市も長くシルバー大学という市民大学を実施していた。それを一度辞めてシルバー世代に限定しない形となったため、人を長く育てるといった仕組みは無くなってしまった。長期的に学習するというプログラムづくりはキャンパスおだわらで担うかどうかは分からないが、必要な要素だと思う。課題解決ベースの育成手法と、居場所づくりも含めて長期的に学び続けるという育成手法など、いくつかあると思うので、そのようなことを検討するべきであると感じている。全員の方から意見を述べていただいたが、左京委員如何か。

左京委員 先ほど触れ漏れたこととして、資料9-3にまとめていただいているが、既に取り組んでいる講座の中にもまちづくりの人材育成にヒントとなるものはないかと考えると、このような事例があるという資料である。田植歌のグループに2名の参加があった、託児ボランティアへ多くのかたの参加があったなどということもあり、特定の地域をより詳しく調査していくというアプローチとは別のアプローチとしては、特定の団体を起点としたアプローチもあると感じた。委員の皆様のお話を伺っていると、例えばそれはスクールボランティアであり、商店街活動なのかもしれない。そのような既に活動している主体を軸にそれを拡充していくにはどうすれば良いかというアプローチもあると思う。

委員長 これからこのような議論が本番となる。今回の委員会は、キャンパスおだわら全体を把握していただき、今後を展望してもらうための初回である。これからキャンパスおだわらの特にまちづくりの人材育成の部分と、運営の部分をどうやって円滑に行っていくかという2点を中心となりこれから議論していく。

友部課長 いろいろなご意見をいただくことができた。人材育成はなかなか難しく、生涯学習課として、キャンパスおだわらとしてどんな役割を担えるかについて、今年度試行的に実施しようとする講座は、チャレンジ的な部分がある。それを広げていくことで、当然生涯学習課だけでは担えない部分が出てくる。そこは市民部等とも協働しながら小田原市全体としての課題である地域コミュニティの活性化などについても、そこでの学習部分に関わるために、理念レベルではなく、実務レベルでどうすべきかをこれからは検討していければと考えている。

諸星部長 古矢委員にお話しいただいた内容について、改めて新規にご参加いただいている委員の方向けにご説明させていただきたい。まちづくり人材の育成がキャンパスおだわらのすべてではない。今鮮鋭なテーマとしてあるので、ここで議論していただいているが、多様にある小田原市内の生涯学習活動の総体をキャンパスおだわらと呼んでおり、市内の生涯学習活動をできるだけ網羅しようということで、風呂敷を広げるだけ広げてしまった。その中で一つはすべての生涯学習活動を網羅することで、漏れなく情報提供できるようにすることと、把握することで今日課題となっているもので、生涯学習活動で応えられていないものがそこから見えてくるのではないかということ意識している。網羅、分析し、欠けているものを埋めていこうということを目論んだ。

もう一つは、シルバー大学から大きな市民大学のようなものにシフトチェンジをしようと試みてキャンパスおだわらに切り替わってきた。シルバー大学の時代は20年以上前からになるが、高齢化が進む中で、高齢者が学び仲間づくりをすることでそれを地域活動などにより社会還元していただくという考えのもと、大学を2年間、3年間学んで卒業した人たちが、ボランティア組織をつくるなどする筋道をつくってきた。それぞれの活動はNPO法人化するなど自立をしていったことから、生涯学習課が丸抱えをせずにもっと広い世代に向けて学習活動を展開しようということで切り替えていった。一方で、基本的には生涯学習としては、学んでいただいて、そこで仲間づくりができればそれで良いという考え方もある。その部分はあり続けても良いと考えているが、今日的な課題にも応えられるような部分に生涯学習課としてコミットしたいということで、その一つがまちづくりの人材育成ということに繋がってきている。まちづくりの人材育成がキャンパスおだわらのすべてではないが、そこが今一番鮮鋭な課題として見えているということである。この課題にはいろいろな部局が直面しており、特に小田原は地域コミュニティの再生とそれによるまちづくりを進めており、26ある自治会連合会の単位で市民主体の活動を進めていただくということを行っている。しかしながら、そこでも、子供会や老人会など、従来の枠組みでは参加する人が減っている現状がある。参加者がいる程度で、活動が成立しているのは自治会ぐらいである。子供会も参加率は5割を切っている。老人会に至っては約2割の参加率である。地域の差はあるが、従来の枠組みのままでまちづくりを進めていくには限界をきたしているという危機感を持っている。文化部所管の事務ではないものも多く含まれているが、このような状況で何をしなければならぬかということ、さまざまな担い手や色々な行政の部署が横串を通して総合的に取り組まないと課題が解決していかないという状態になっていることがあり、我々の問題意識はそこから出発している。最終的には古矢委員が言われるとおり、色々な団体に連携して課題に取り組まないと解決しないものもたくさんある。その手がかりとして生涯学習として何ができるかという切り口を見つけないということが今回の目的である。行政間も横串を通して連携する必要がある、地域の活動団体同士も横串を通して連携しないと課題が解決できない状態にあると感じている。既存の団体も一生懸命活動している中で、何ができるのかということを探している状況である。そのようなご認識の上でこれからもご意見をいただければと思う。

古矢委員 資料を見る限り、私が関わっている相模原市より非常に活発にいろいろな講座が開かれており、参加者も多い。講座数自体も相模原市は市民大学で年間30～40程度、参加者も2,000人を少し超えるくらいである。小田原市はそれより規模が違う。しかも、アンケートを取る中で、これからの生涯

学習社会に非常に重要な、どのようなことが学べて、それが自分にとってどのような意識の変化を起こしたかをしっかりと問うている。一つ聞きたいのは、総合計画ではコミュニティの再生が大テーマとして入っており、生涯学習課の所管する仕事の中でもそのテーマが入っているのだと思うが、そうであれば、小田原は小田原だけの責任を果たせば良いということでは無いと思う。どういうことを言いたいかというと、少子高齢化社会になり、県西の地域自体が活力を失ってきている時に、他地域から小田原に人口が入ってきている状況になっていると思われる。そうであると、小田原自身が担うべき役割は市だけではなく、広域の学習拠点やコミュニティ再生活動のマイスターのような役割もあるのではないかと思う。そういった観点で真剣にまちづくりの人材を育成するのであれば、どのようなことが必要かと思いを膨らませている。

委員長 小田原は観光資源も豊富であり、時間をかけて遊びに来て、ここで学び帰りたいと思う人も多いはず。人口定住の期待ももちろんあるが、人口交流をすることによって小田原にお金を落としてくれる人や、学びの相互交流が起こるので、そのあたりも狙っていく必要があるということであると思う。

#### 4. その他

- ・ 次回の運営委員会は平成27年8月31日(月)午後開催予定。後日案内を発送。

以上